

このコーナーでは、九州一安心安全なまちづくりを目指す小林市で活躍する人やその活動など、協働のまちづくりに関する情報を提供します。



防災
災害時に物資提供や職員派遣
熊本県人吉市と相互応援協定



肥後市長と田中市長。市では、県内市町村や環霧島会議構成市町とも相互応援協定を結んでいます

3月18日、人吉市と災害時等の相互応援に関する協定を結びました。どちらかの地域で災害が発生し、応援が必要になった際には、もう一方の市が職員の派遣、生活必需品の提供や被災者の受け入れをするなどして支援をしていきます。市役所応接室で行われた調印式で、田中信孝人吉市長は「万が一の時には、全力を尽くして協力し合っていきたい。また、この協定を契機にあらゆる面で交流を進めていきたい」と話しました。



認知症対策
地域ぐるみで、認知症の人や家族が住みやすい地域を
南真方西区と緑町区で声かけなどの対応を学ぶ徘徊模擬訓練

認知症で徘徊する高齢者への対応を学ぶ徘徊模擬訓練が、3月11日、南真方西区と緑町区で行われました。小林小の児童、住民や関係者ら104人が参加し、声かけなど徘徊者の早期発見につながる接し方を体験しました。参加者は、小林小体育館であった小林市地域包括支援センター職員による認知症の説明や、住民らによる寸劇を通して声のかけ方などを学んだあと、訓練を開始。訓練は両地区の2コース

で、それぞれ徘徊者に扮した住民を配置。参加者は徘徊者役を見つけると、優しく声をかけていました。児童は下校中の徘徊者への声かけを体験。役割分担に従い、保健センターへ駆け込んで警察へ通報するなど、手順を確認しました。



防災
防災の要「市民防災リーダー」
市民35人を新たに認定

地域防災の要となる人材を育成する市民防災リーダー養成講習会が、中央公民館で開催されました。35人が受講し、市の防災への取り組み状況、気象の仕組み、救急救命法や防災士の指導によるロープワーク実習など防災の知識と技術を学習。講義と実習を修了した受講者には認定証とバッジが交付されました。現在の防災リーダーは363人。講座は平成26年度も開催しますので、まだ受講されていない人は、ぜひ受講ください。



西諸広域事務組合消防本部の職員から指導を受け、AEDの使用法など救命措置を学ぶ受講者

協働により「九州一 安心安全なまち 小林市」を目指して

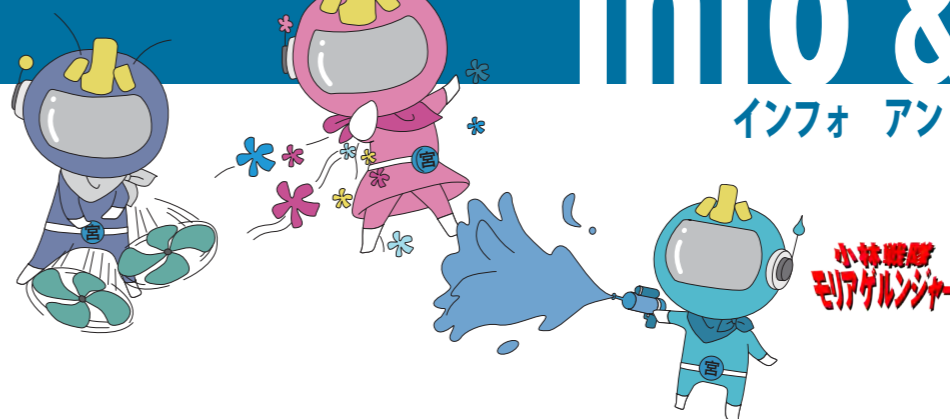


も応援。

こばやし協働

Info & News

インフォ アンド ニュース



このイラストは、小林高校2年生 かいぞう ひな 海蔵楓寧さんが(当時・永久津中3年生)小林市の活性化を願い作成したものです。市の自然(花、星、水、虫)がモチーフになっています。



防災
災害時に水や避難場所を提供
市内4つの企業と協定



左クリーン・アクア・ビバレッジの米元正巳代表取締役社長 中左からフレッシュアクアジャパンのかねまるかつみ小林工場長と神の郷温泉の小牧事務局長 右生駒名水の坂東常彦代表取締役

市と「(株)クリーン・アクア・ビバレッジ」、「(株)フレッシュアクアジャパン」、「生駒名水(株)」との「災害時におけるミネラルウォーター供給等に関する協定」の調印式が3月19日、20日に市長応接室で行われました。また、3月19日に「恵みの湯神の郷温泉」と「災害時における避難場所の提供の協定」を結びました。これらの協定は、阪神淡路大震災や東日本大震災のとき、飲料水や避難場所などが不足したという教訓を生かし、

大規模な災害が起きたときに、被災者へミネラルウォーターや避難場所を提供するというもの。肥後正弘市長は、「災害が発生したときは、水や避難場所が必要不可欠。日常から危機意識を持ち、万が一のときは、この協定を有効に活用させていただきたい」とあいさつ。恵みの湯神の郷温泉の小牧義友事務局長は、「市民の皆さまに何かあったときに、市内にある施設として、お手伝いができればうれしい」と協定への思いを語りました。